

津波浸水想定について

(解説)

1 津波浸水想定の考え方

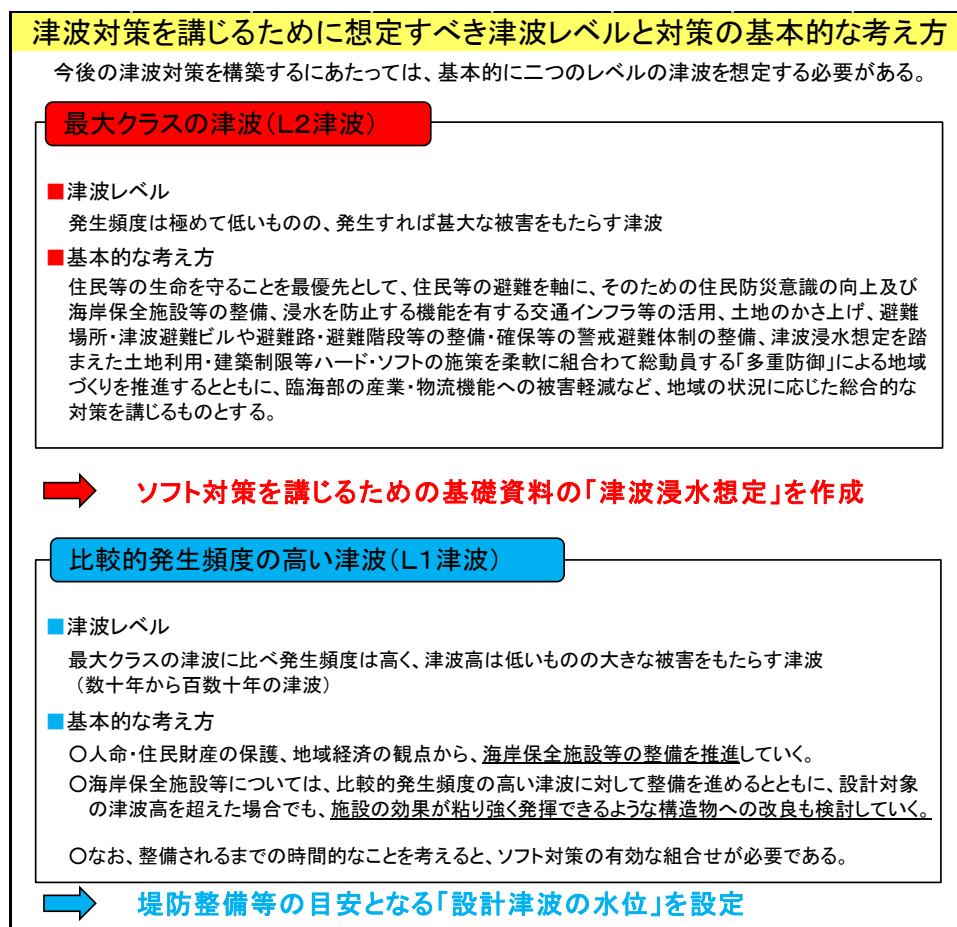
平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による甚大な津波被害を受け、中央防災会議は、新たな津波対策の考え方を「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告（平成 23 年 9 月 28 日）」の中で示しました。

この中で、今後の津波対策を構築するにあたっては、基本的に二つのレベルの津波を考える必要があるとされています。

一つは、海岸堤防などの構造物によって、津波の内陸への浸入を防ぐ海岸保全施設等の建設を行う上で想定する「L1 津波」で、比較的発生頻度が高く、大きな被害をもたらす津波です。

もう一つは、住民避難を柱とした総合的防災対策を構築する上で想定する「L2 津波」で、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波です。平成 23 年 12 月に制定された「津波防災地域づくりに関する法律」では、都道府県知事は、この L2 津波に相当する津波があった場合に想定される浸水の区域及び水深（以下「津波浸水想定」という。）を設定するものとする、と定められています。

今回、三重県では、有識者の方々に科学的・客観的な観点からご意見をいただきながら、津波浸水想定の設定を行い、公表するものです。



図一 1 津波対策を講じるために想定すべき津波レベルと対策の基本的な考え方

2 留意事項

津波浸水想定をご覧いただく際には次の留意事項をご確認ください。

(総論)

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成 23 年法律第 123 号）第 8 条第 1 項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 津波浸水想定は、三重県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が平成 24 年 8 月に公表した 11 のケースから、三重県への影響が大きいと想定される 1、2、6、7、8、9、10 の 7 つのケースを選定しました。これら 7 ケースごとの最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- 津波浸水想定は、避難を中心とした津波防災対策を進めるための一つの目安であり、津波による災害の発生範囲を決定するものではありません。また、一定の条件を設定し計算した結果のため、着色されていない区域が必ずしも安全というわけではありません。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。

(計算条件)

- 津波浸水想定にあたってはシミュレーションを実施する際の条件設定の制約から、予測結果には限界があります。
 - ・ 津波浸水想定では、幅 10m 以上の河川については遡上を計算していますが、幅 10m 未満の河川や水路についてはその計算を実施していません。
 - ・ 津波浸水想定では、津波による河川内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上により、水位が変化することがあります。

(利用上の注意点)

- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに大きくなる場合があります。
- 用いている地形図は、現在の地形と異なる場合もあります。
- 津波は、第 1 波だけで終わるものではありません。何度も繰り返してくるものです。また、第 2 波以降が大きくなることもあります。
- 三重県の沿岸部を中心とする地盤高が低い地域については、堤防等が壊れている場合、津波が収束した後でも、日々の干満によって、浸水範囲が広がる可能性があります。また、地盤沈下、液状化等により、長期間にわたって湛水することがあります。
- 津波からの確実な避難のためには、市町で作成されるハザードマップもあわせて活用してください。

(その他)

- 今後、数値の精査や表記の改善等により、修正する可能性があります。

3 津波浸水想定の記事事項及び用語の解説

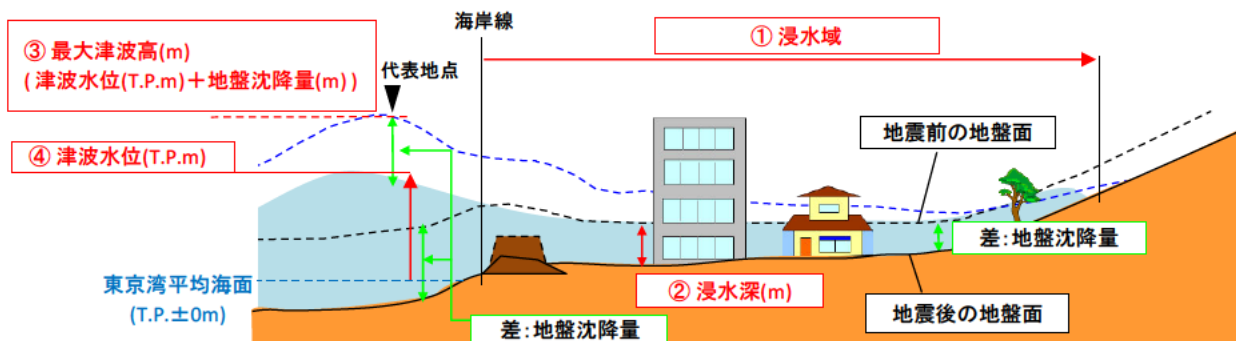
(1) 記事事項

<基本事項>

- ① 浸水域
- ② 浸水深
- ③ 留意事項（「2 留意事項」を参照）

(2) 用語の解説（図－2 参照）

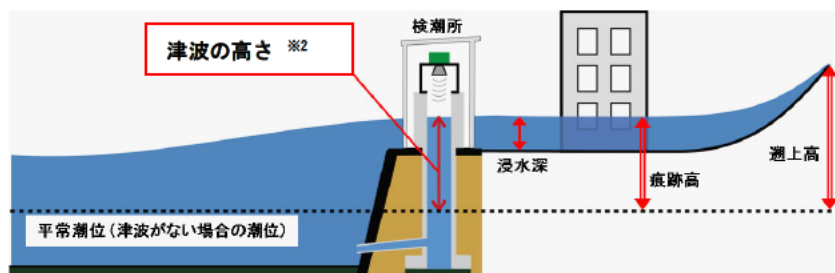
- ① 浸水域について
海岸線から陸域に津波の遡上が想定される区域です。
- ② 浸水深について
 - ・ 陸域の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さです。
 - ・ 図－3のような凡例で表示しています。
- ③ 最大津波高について
広域的な地盤沈降量を加味した津波高です※1。
- ④ 津波水位について
東京湾平均海面からの水面の高さです（標高で表示）。



図－2 各種高さの模式図（三重県）

最大浸水深 (m)	
20	～ 50
10	～ 20
5	～ 10
2	～ 5
1	～ 2
0.3	～ 1
0.01	～ 0.3

図－3 浸水深凡例



出典：気象庁「津波について」(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/faq/faq26.html>)

図－4 津波水位の定義（気象庁）

※1 地震が発生すると、地盤が沈降することが想定されますが、沈下前の現状の街並みの中で、どこまで津波が到達するのかを示すため、津波高は地盤沈降を加味した値として表示しております。

※2 気象庁が発表する津波の高さは、平常潮位（津波がなかった場合の同じ時刻の潮位）からの高さを表示しています。

4 対象津波（最大クラス）の設定について

(1) 検討対象とした想定津波について

内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が平成 24 年 8 月に公表した 11 ケースの津波断層モデルによる津波を検討の対象としました。

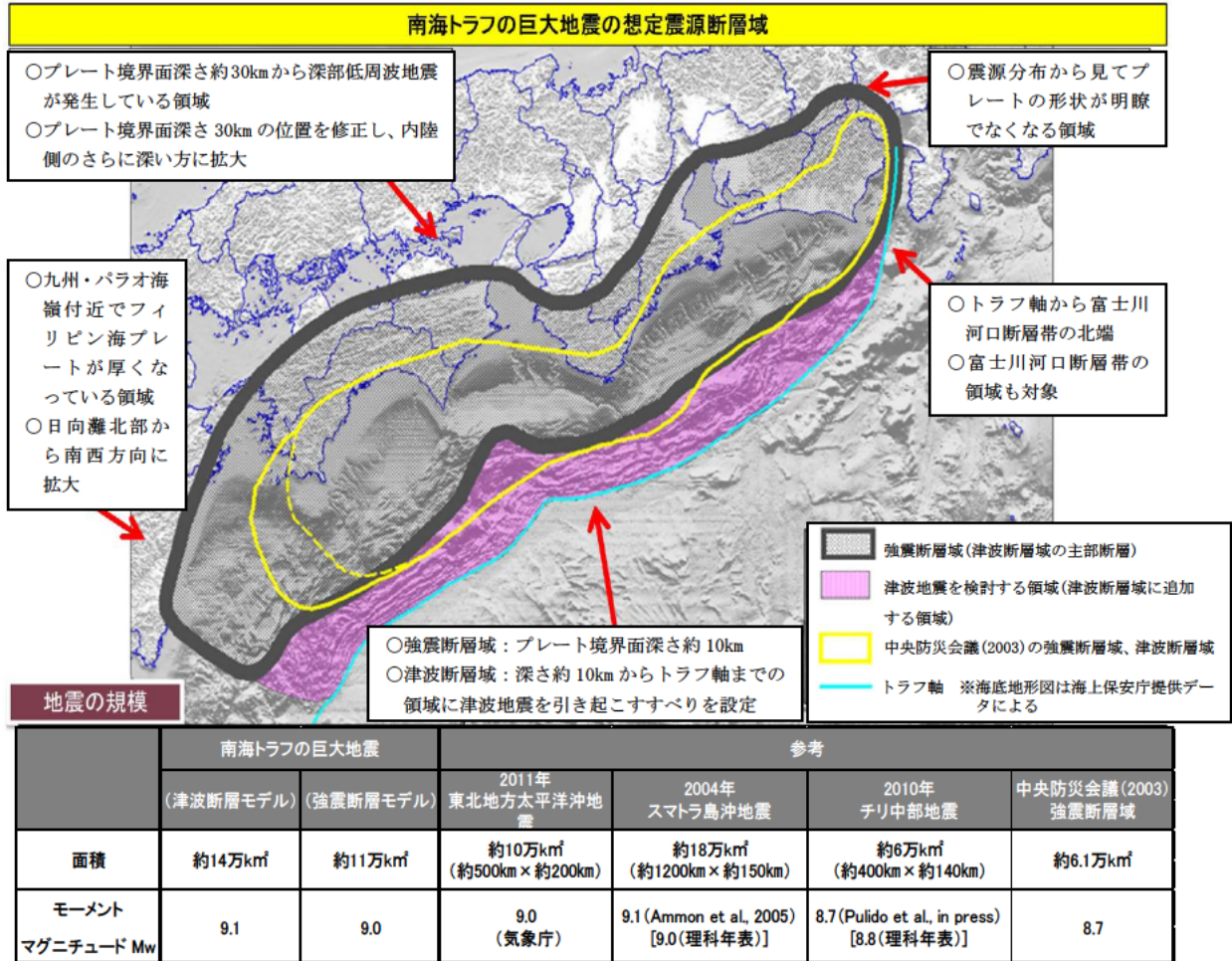
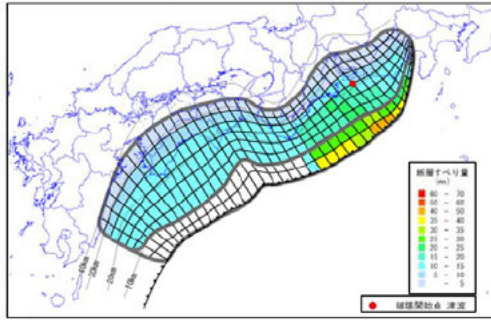


図-5 内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表 想定震源断層域

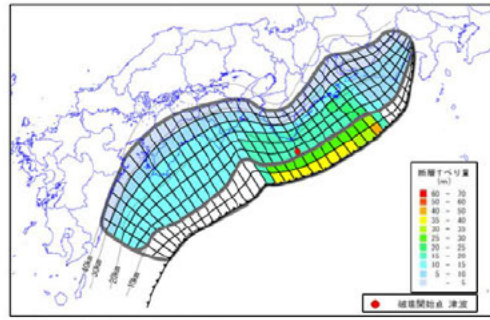
(2) 選定した最大クラスの津波について

三重県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が平成24年8月に公表した11ケースの津波断層モデルのうち、三重県への影響が大きいと想定されるケース1、2、6、7、8、9、10の7つのケースを選定し、津波シミュレーション結果を重ね合わせ、最大となる浸水域及び浸水深を抽出しました

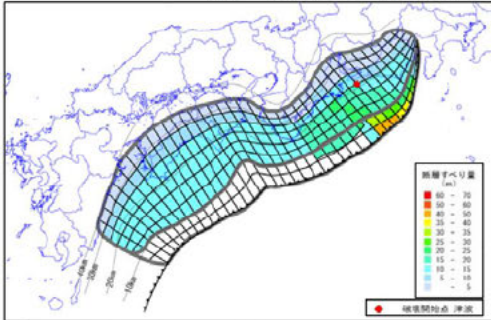
対象地震	内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表(H24.8.29)の想定地震津波
マグニチュード	Mw=9.1



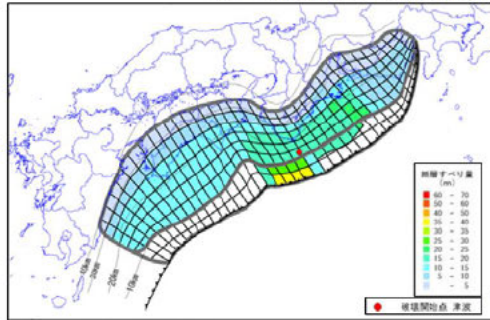
【ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり」域を設定】



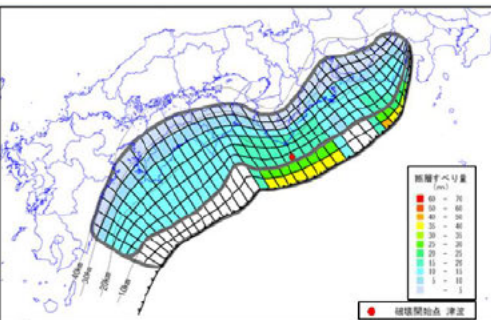
【ケース②「紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり」域を設定】



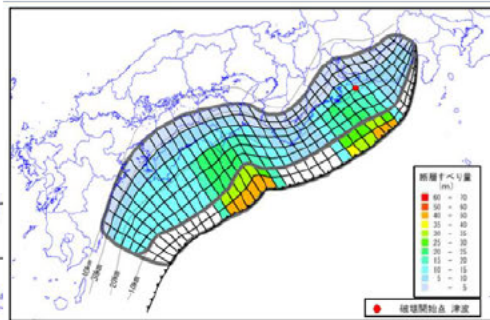
【ケース⑥「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」を設定】



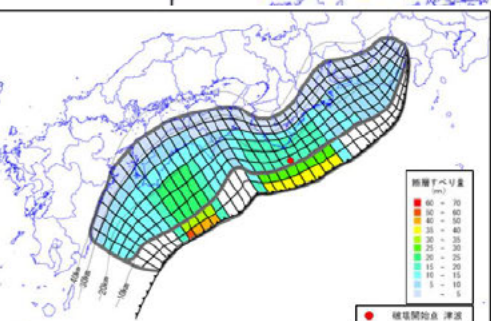
【ケース⑦「紀伊半島沖」に「大すべり域+(超大すべり域、分岐断層)」を設定】



【ケース⑧「駿河湾～愛知県東部沖」と「三重県南部沖～徳島県沖」に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定】

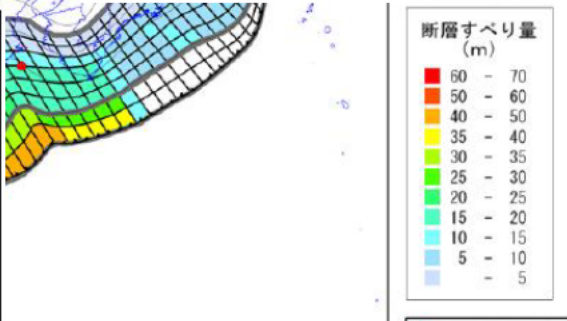


【ケース⑨「愛知県沖～三重県沖」と「室戸岬沖」に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定】

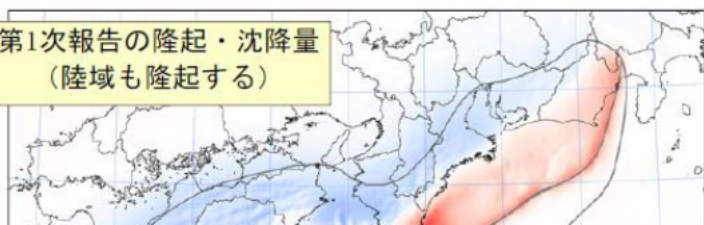


【ケース⑩「三重県南部沖～徳島県沖」と「足摺岬沖」に「大すべり域+超大すべり域」を2箇所設定】

「大す



第1次報告の隆起・沈降水量
(陸域も隆起する)

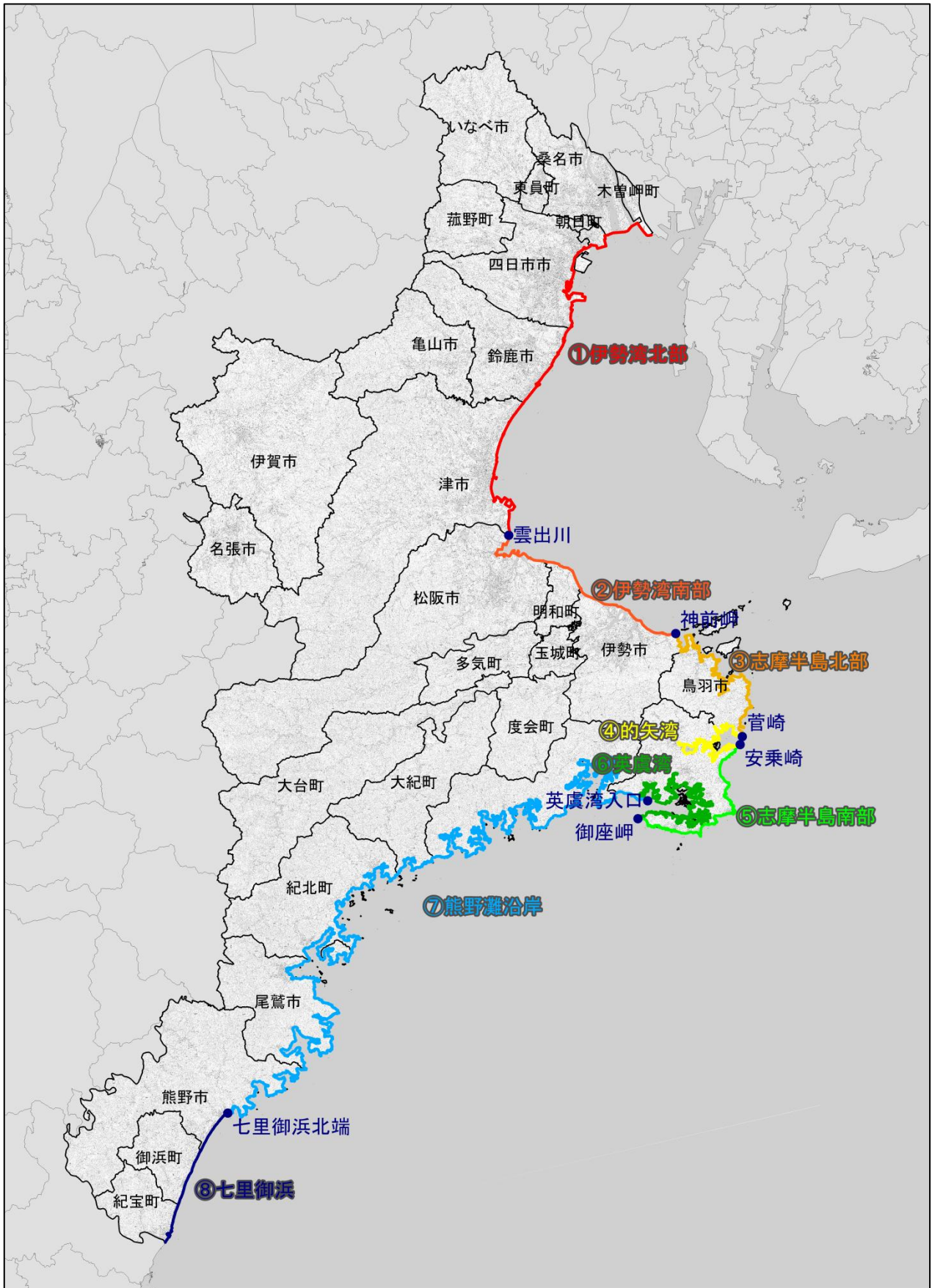


過去に三重県沿岸に襲来した既往津波との関係については、まず、三重県沿岸の湾の形状等の自然条件と、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が平成24年8月に公表した最大クラスの津波高の分布傾向から、次の8つの地域海岸に区分（表－1、図－7）した上で、過去に三重県沿岸に襲来した既往津波と最大クラスの津波高を、地域海岸ごとに比較した結果、今回選定した7つのケースの最大クラスの津波断層モデルに伴う津波高が最大となることを確認しました（図－8（1）～（8））。

なお、過去に三重県沿岸に襲来した既往津波については、「津波痕跡データベース（東北大学災害科学国際研究所・原子力安全基盤機構）」等から、記録が確認できた津波を抽出・整理しています。

表－1 地域海岸の区分

番号	地域海岸名	関係市町
①	伊勢湾北部	木曾岬町、桑名市、川越町、四日市市、鈴鹿市、津市
②	伊勢湾南部	松阪市、明和町、伊勢市
③	志摩半島北部	伊勢市、鳥羽市
④	的矢湾	鳥羽市、志摩市
⑤	志摩半島南部	志摩市
⑥	英虞湾	志摩市
⑦	熊野灘沿岸	志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市
⑧	七里御浜	熊野市、御浜町、紀宝町



図一七 三重県の地域海岸区分図

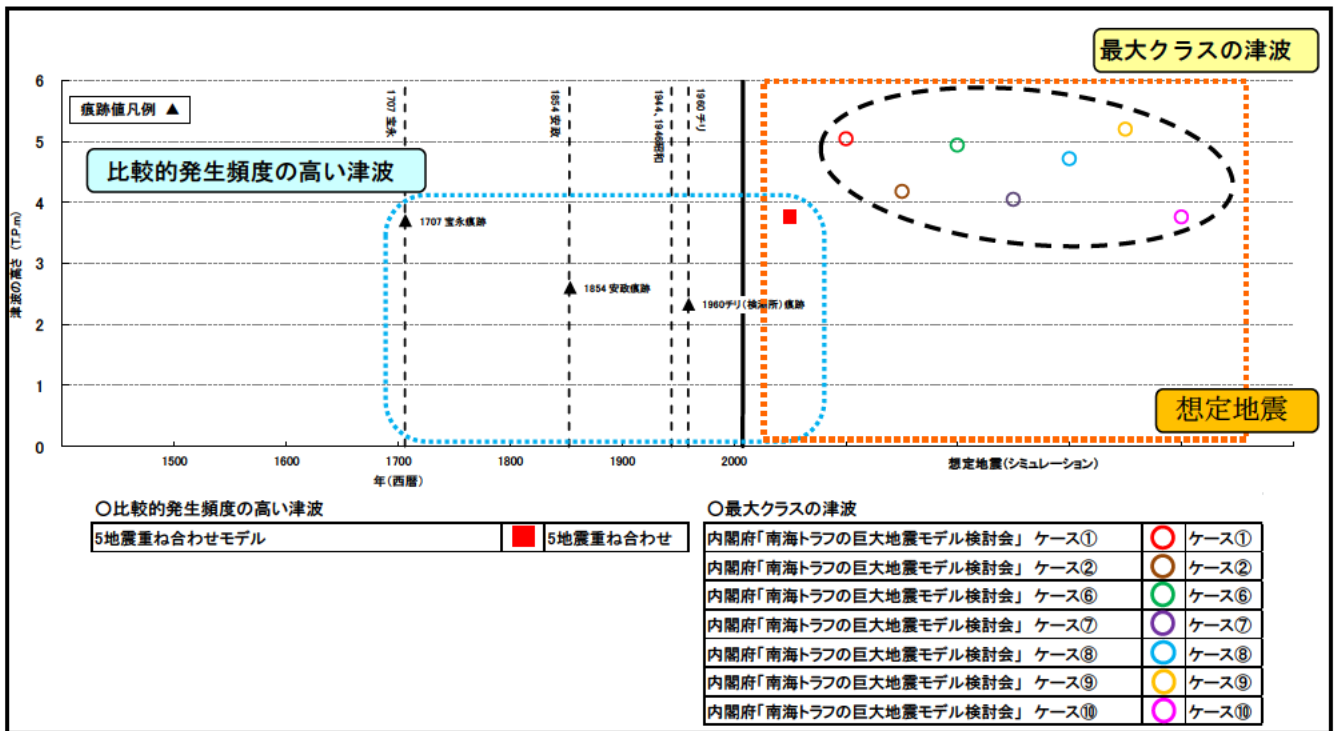


図-8 (1) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【①伊勢湾北部】

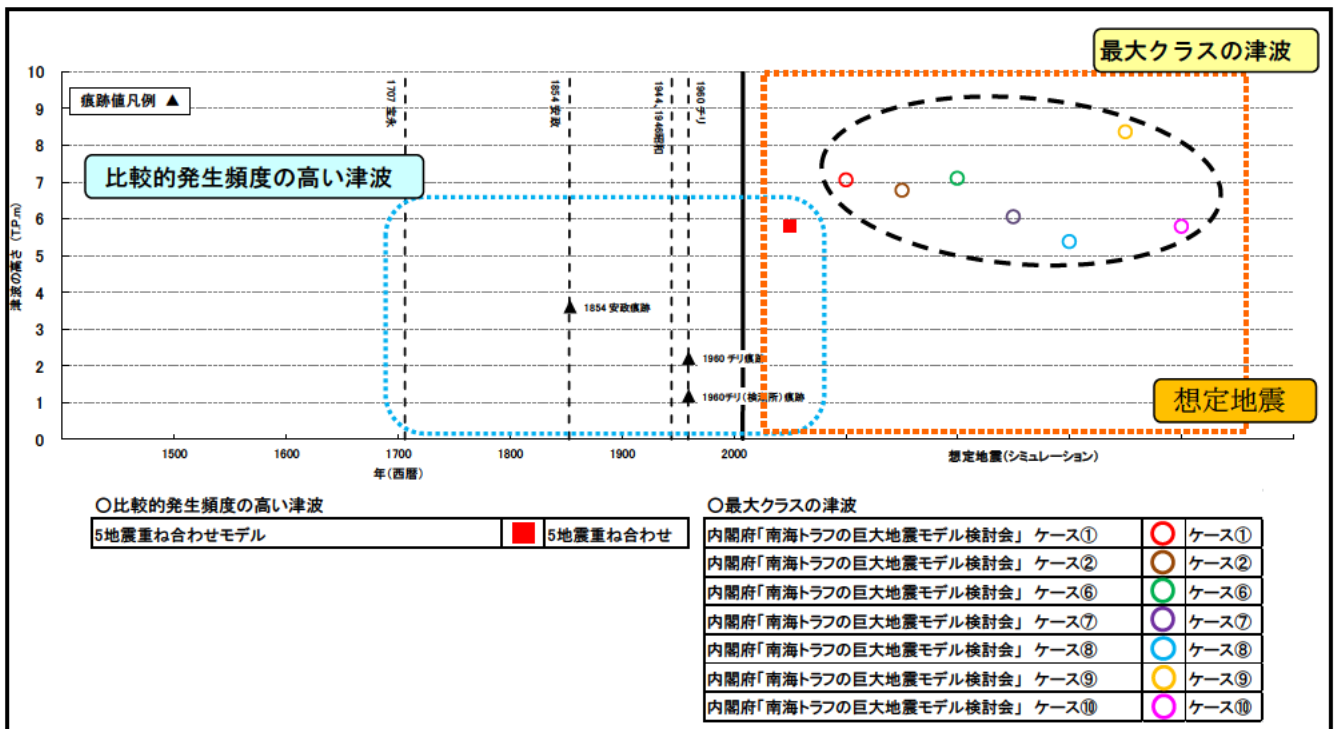


図-8 (2) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【②伊勢湾南部】

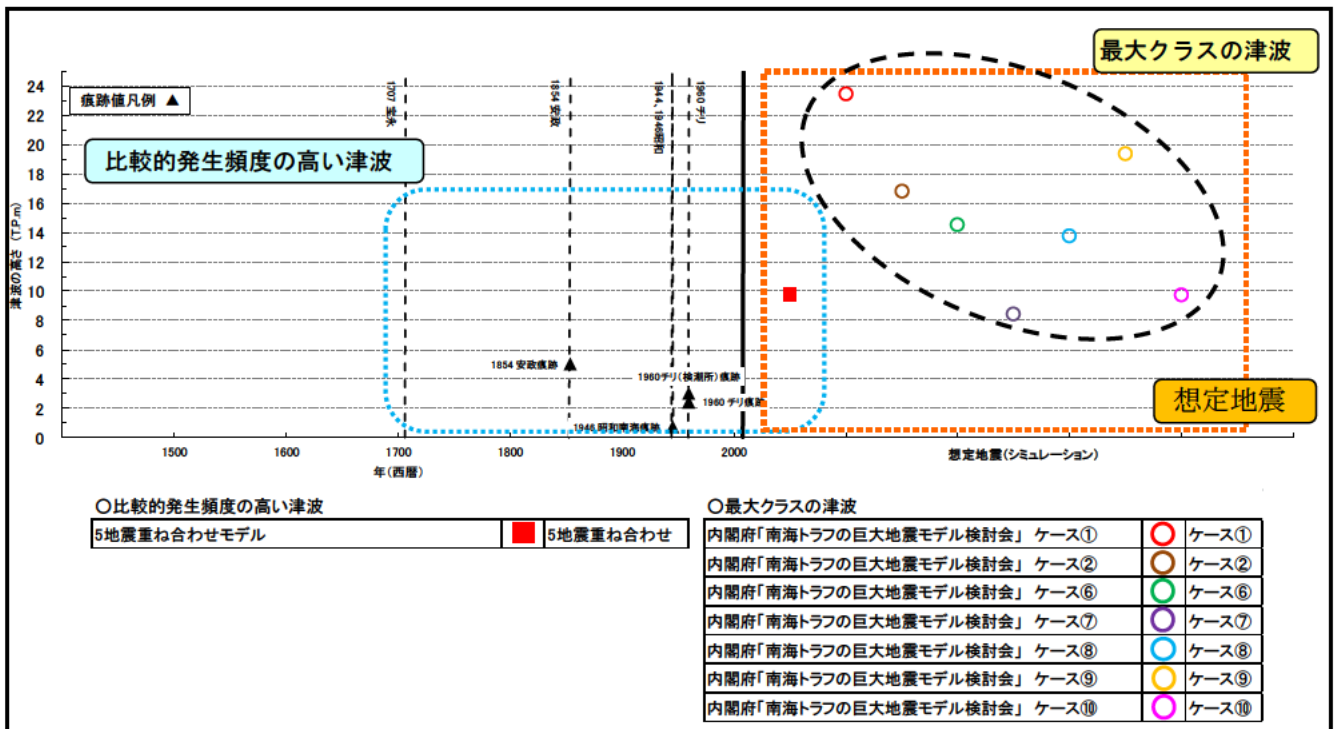


図-8 (3) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【③志摩半島北部】

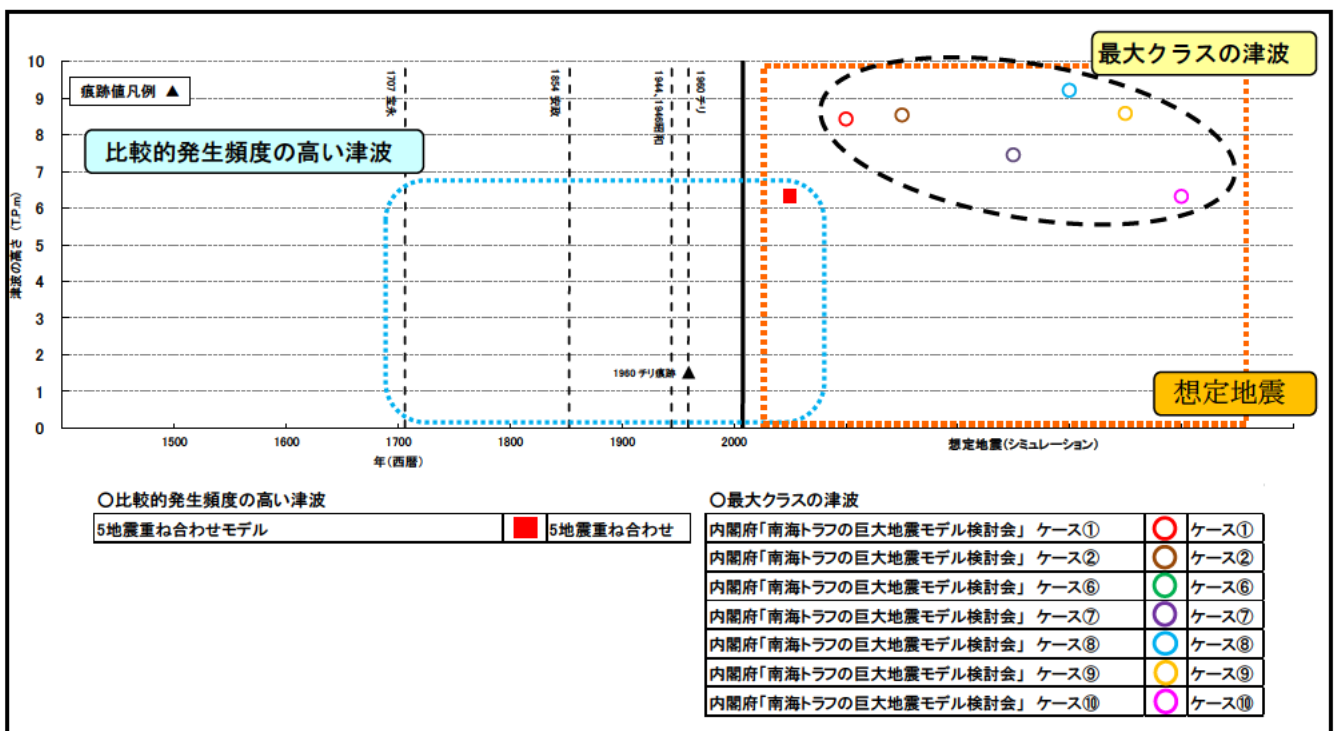


図-8 (4) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【④的矢湾】

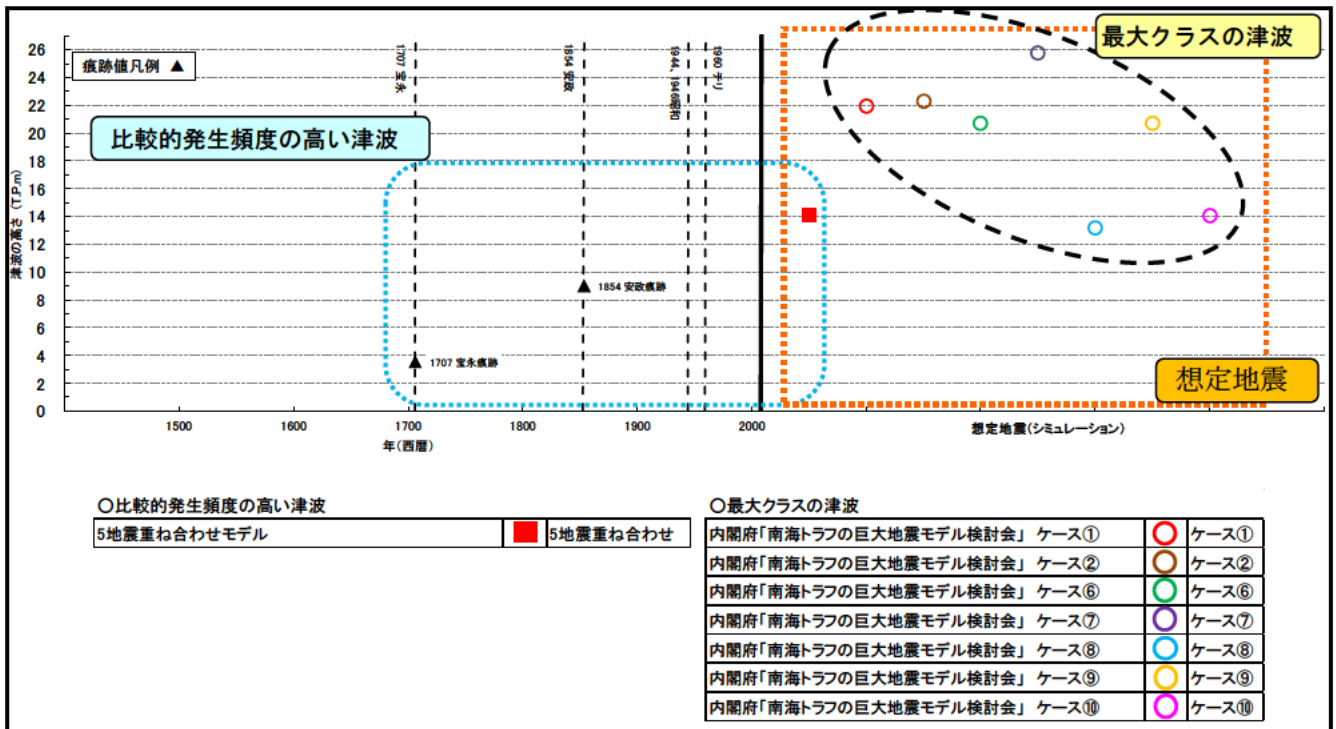


図-8 (5) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【⑤志摩半島南部】

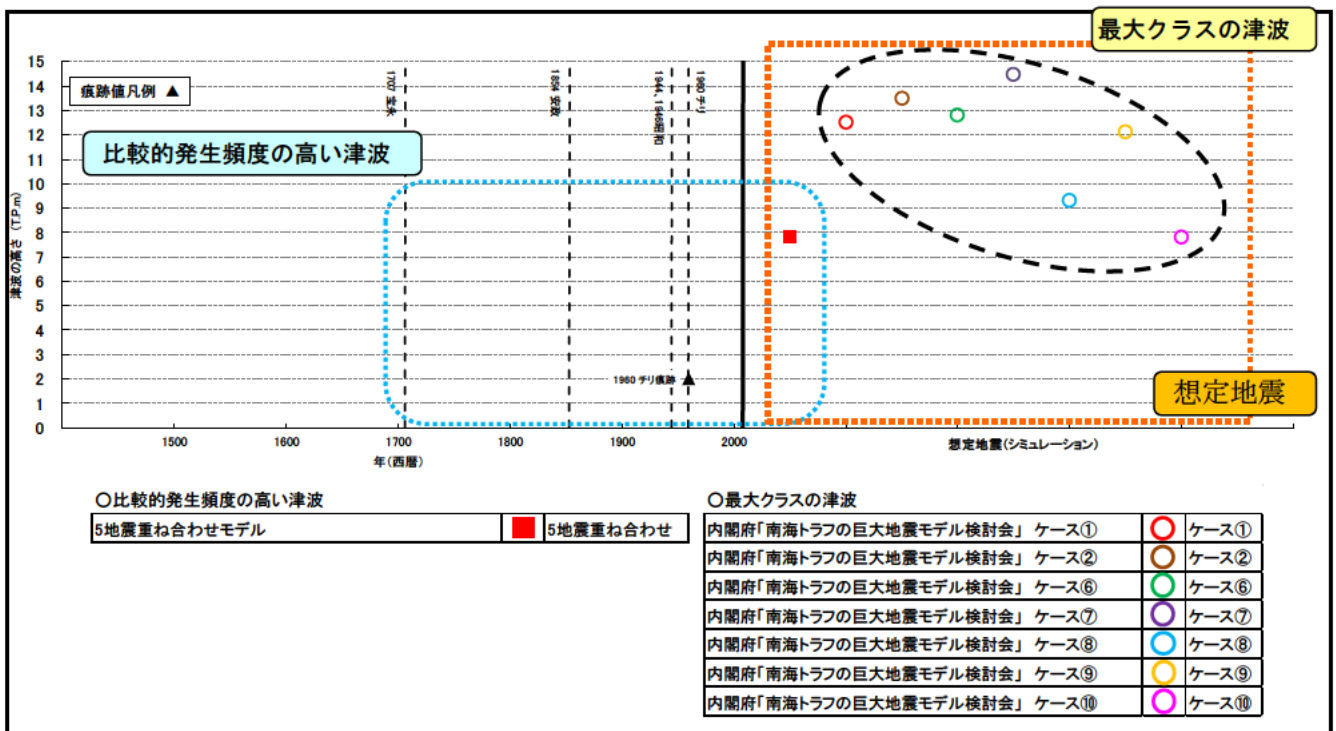


図-8 (6) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【⑥英虞湾】

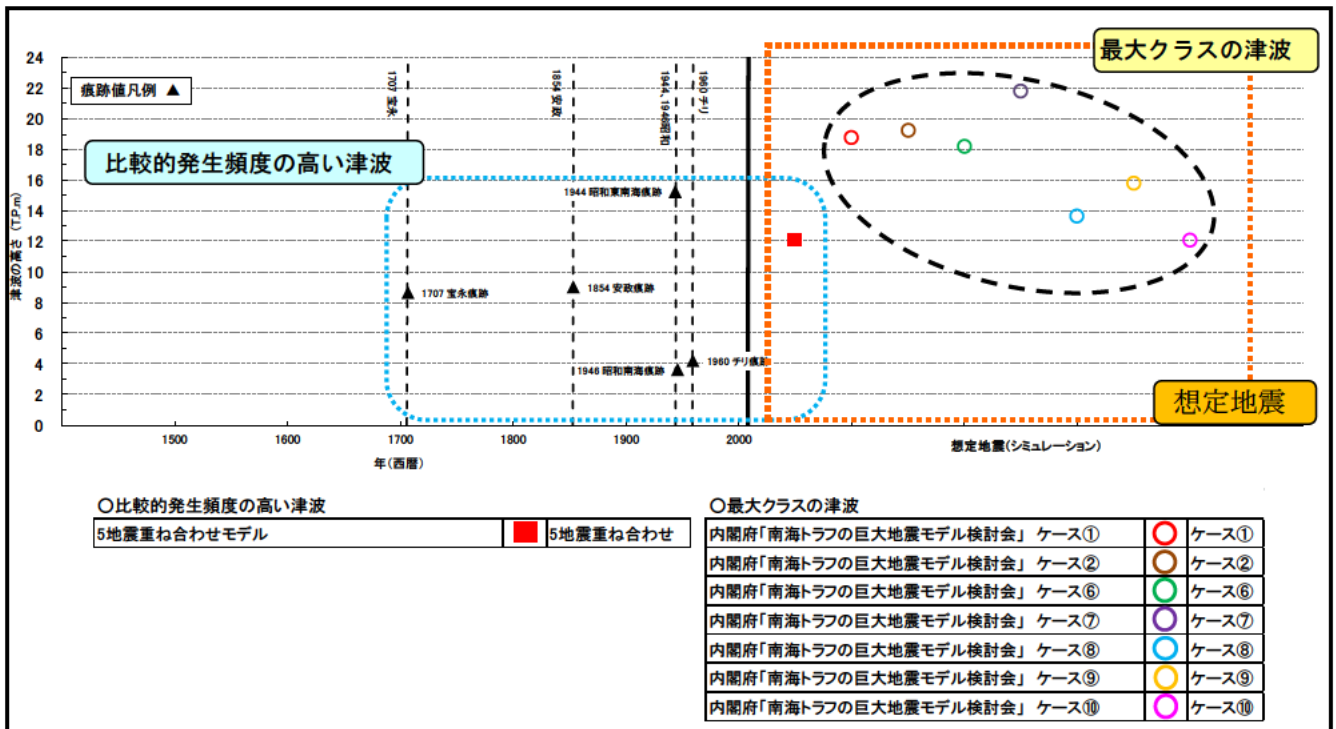


図-8 (7) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【⑦熊野灘沿岸】

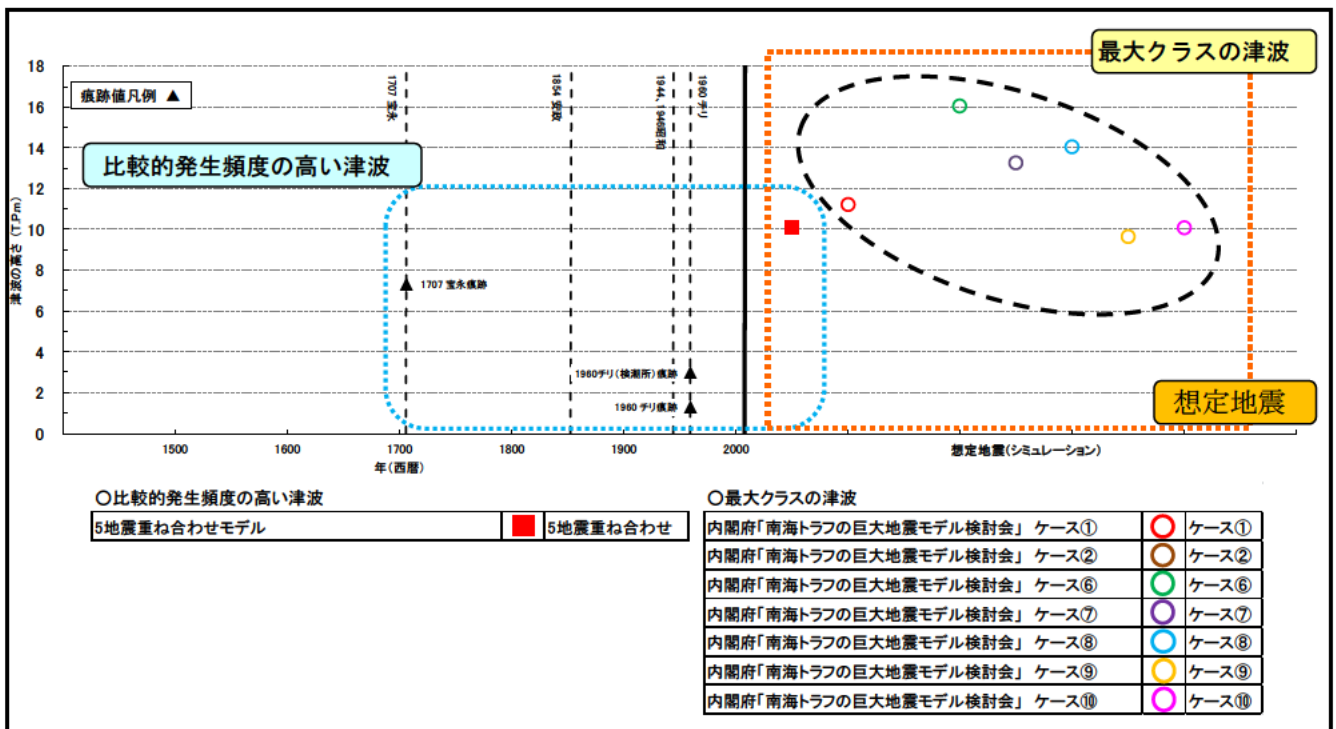


図-8 (8) 最大クラス津波 (L2津波) の設定【⑧七里御浜】

5 主な計算条件の設定

最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合を前提として、次のとおり計算条件を設定しています。

(1) 初期水位について

- ① 海域については、気象庁等の潮位観測データに基づく朔望平均満潮位（※3）をもとに、初期潮位を設定しました。
- ② 河川内の水位については、国直轄河川のみ平水流量（※4）を設定しました。

※3 朔望平均満潮位とは、朔（新月）及び望（満月）の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値を示しています。

※4 平水流量とは、年間を通して185日は下回らない流量を示します。

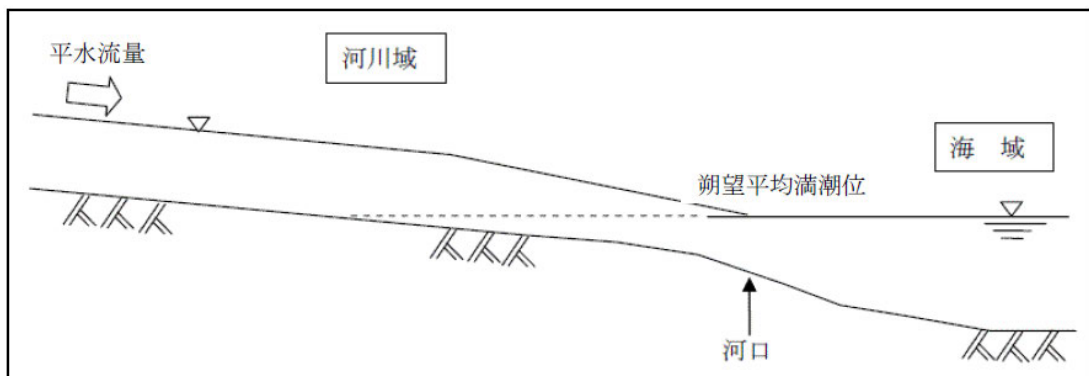


図-9 初期水位の設定

(2) 地盤の沈降について

地盤高については、地震による地盤沈降を考慮しました。

(3) 各種構造物の取扱いについて

- ① 地震や津波による各種施設の被災を考慮し、表-2のとおり構造物条件を設定しました。
- ② 各種構造物については、津波が越流し始めた時点で「破堤する」ものとし、破堤後の形状は「なし」としています。

表-2 構造物条件

構造物の種類	条件
堤防 (盛土構造物)	75%沈下(25%残)し、沈下後の構造物を津波が越流した時点で、破堤するものとしています。
護岸 (コンクリート構造物)	地震と同時に破壊としています。
防波堤 (コンクリート構造物)	地震と同時に破壊としています。
道路・鉄道	地形として取り扱っています(地震による地盤沈降は考慮)。
水門・陸閘	開放条件としています。
建築物	建物の代わりに粗度係数(津波が陸域を遡上した場合に建築物等によって受ける抵抗などを数値化したもの)を土地利用条件に応じて設定しています。

(4) シミュレーションの基本条件について

① 計算領域及び計算格子間隔

- 1) 計算領域は、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」での解析条件を踏襲し、震源を含む範囲としました。
- 2) 計算格子間隔は、最小を10mとし、陸域から沖に向かい10m、30m、90m、270m、810m、2430mとしました。

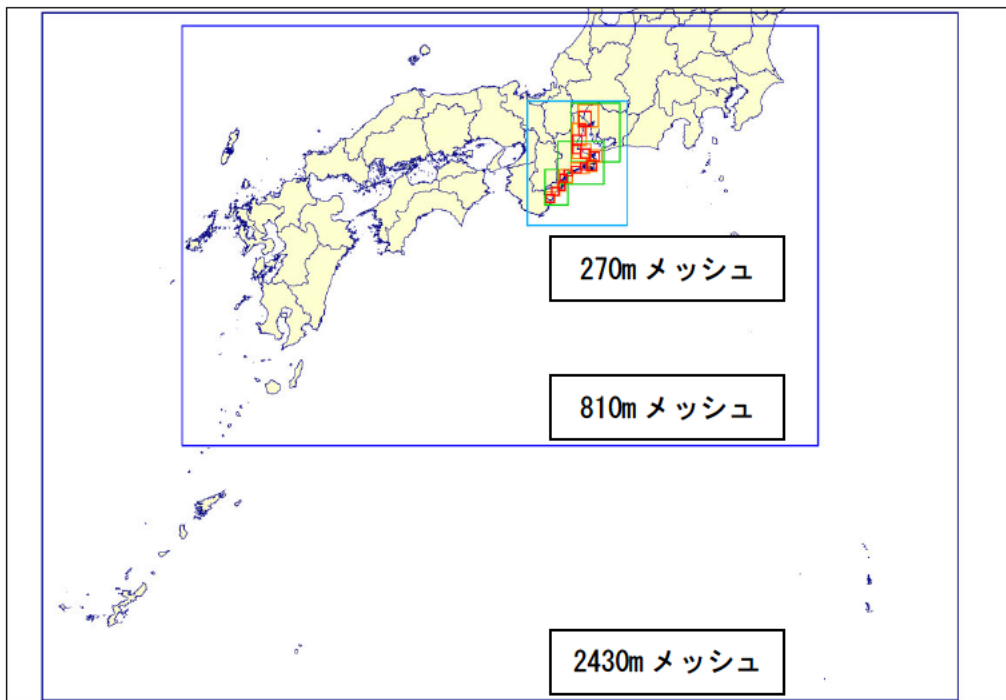


図-10 計算領域及び計算格子間隔 (2430m～270m)

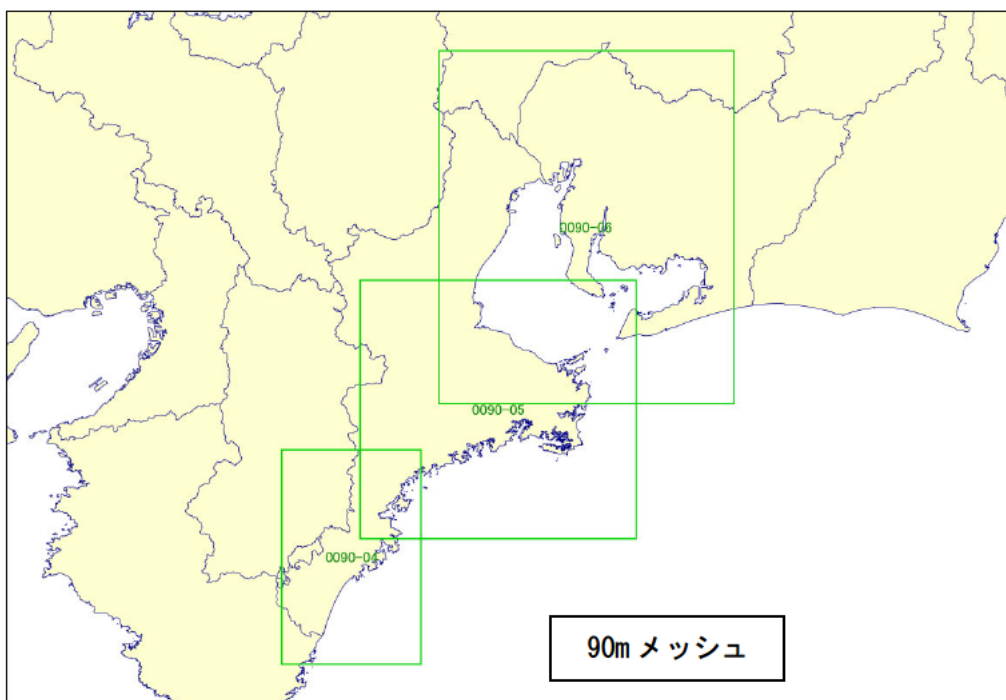


図-11 計算領域及び計算格子間隔 (90m)

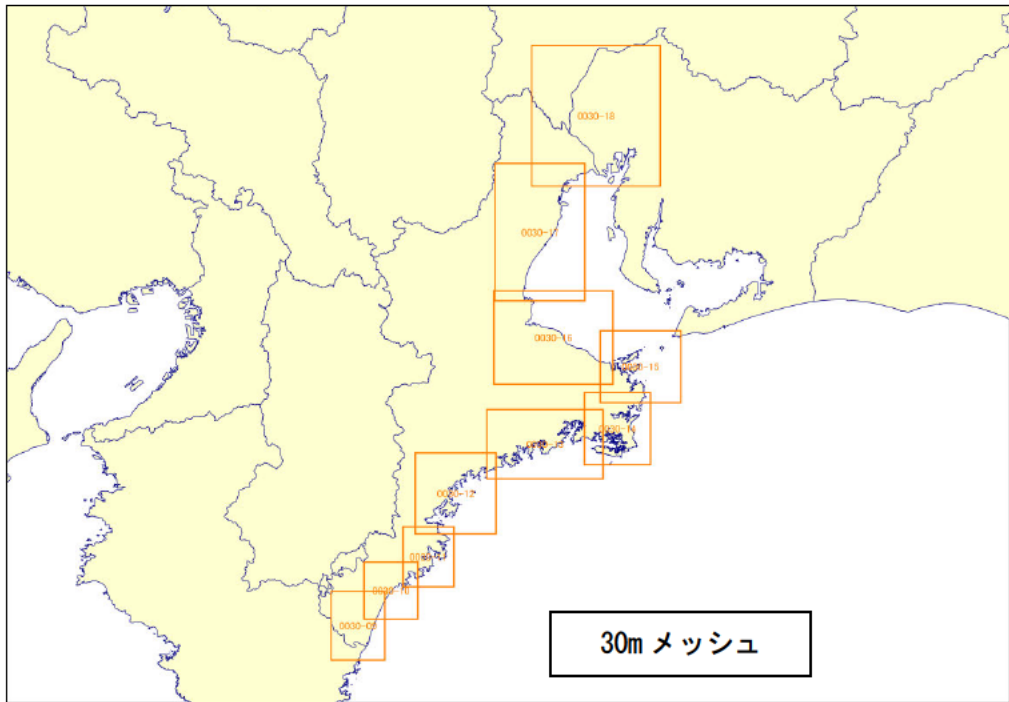


図-12 計算領域及び計算格子間隔 (30m)

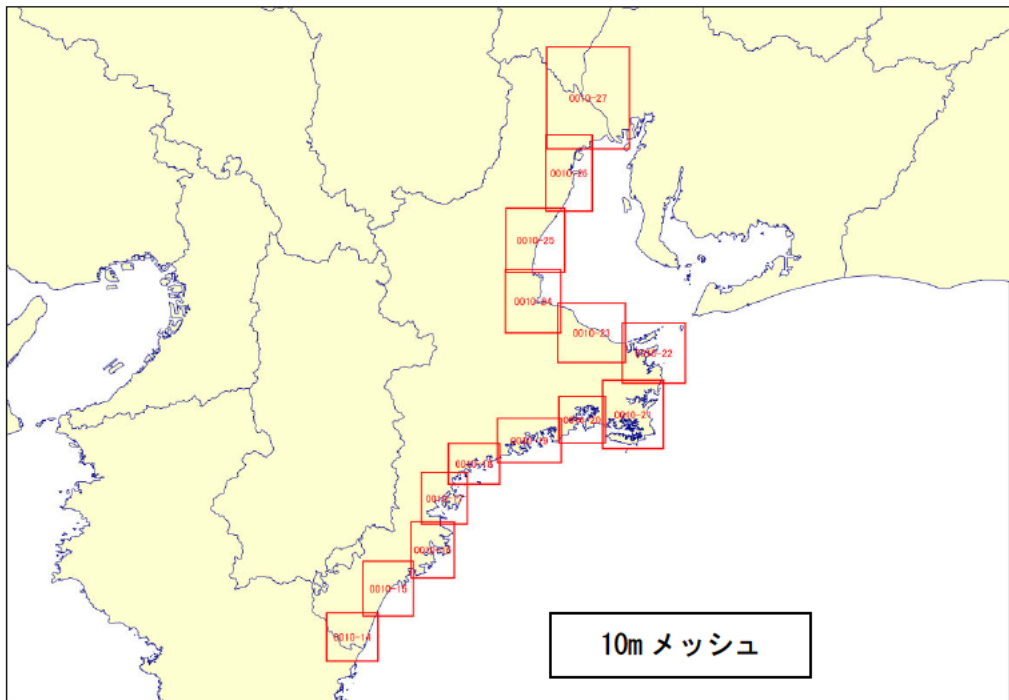


図-13 計算領域及び計算格子間隔 (10m)

② 計算時間及び計算時間間隔

計算時間は、津波による最大浸水範囲、最大浸水深が計算できるように、地震発生から最大 12 時間とし、計算時間間隔は、計算が安定するように 0.1 秒間隔としました。

③ 陸域及び海域地形

1) 陸域地形

- ・ 陸域地形（地盤標高）は、国土交通省国土地理院が実施した航空レーザー測量結果等を用いて作成しました。
- ・ 堤防等は、各施設管理者の測量結果等を用いて作成しました。

2) 海域地形

- ・ 海域地形は、海図、海底地形デジタルデータ（M7000 シリーズ、JTOP030：（財）日本水路協会）を用いました。

④ 初期水位

1) 潮位

気象庁等の潮位観測データに基づく朔望平均満潮位をもとに、計算領域ごとに初期潮位を設定しました。

表－3 初期潮位

潮位観測所名	所管機関	朔望平均満潮位	調査期間	採用値
名古屋（愛知県）	気象庁	1.123	2003-2011	1.2
四日市港	四日市港管理組合	1.090	2001-2010	1.1
鳥羽	気象庁	0.942	2003-2011	1.0
尾鷲	気象庁	0.770	2003-2011	0.8
熊野	気象庁	0.783	2005-2011	0.8
浦神（和歌山県）	気象庁	0.869	2003-2011	0.9

6 浸水面積等について

(1) 市町別の浸水面積

今回の津波浸水想定による沿岸市町の浸水面積は以下のとおりです。

表－4 市町別の浸水面積

市町名	ケース1 浸水面積 (ha)	ケース2 浸水面積 (ha)	ケース6 浸水面積 (ha)	ケース7 浸水面積 (ha)	ケース8 浸水面積 (ha)	ケース9 浸水面積 (ha)	ケース10 浸水面積 (ha)	左記の内 最大 (ha)
木曾岬町	1,207	1,207	1,207	1,207	1,207	1,206	1,206	1,207
桑名市	3,392	3,399	3,394	3,404	3,388	3,389	3,392	3,404
川越町	543	537	543	537	540	538	528	543
朝日町	137	134	138	134	136	134	129	138
四日市市	1,968	1,870	1,895	1,860	1,887	1,938	1,627	1,968
鈴鹿市	1,060	1,078	984	1,067	1,006	1,170	940	1,170
津市	3,641	3,651	3,543	3,556	3,299	3,564	2,975	3,651
松阪市	3,935	3,986	3,901	4,009	3,625	3,913	3,488	4,009
明和町	1,415	1,310	1,392	1,309	1,230	1,461	1,124	1,461
伊勢市	3,782	3,792	3,777	3,773	3,331	3,875	3,127	3,875
鳥羽市	887	785	865	774	781	886	595	887
志摩市	2,219	2,231	2,122	2,343	1,745	2,138	1,687	2,343
南伊勢町	1,505	1,602	1,587	1,728	1,002	1,307	1,043	1,728
大紀町	118	137	138	151	95	96	98	151
紀北町	897	1,003	1,005	1,079	818	739	829	1,079
尾鷲市	558	573	646	684	542	445	541	684
熊野市	229	241	418	304	281	171	326	418
御浜町	206	192	400	253	352	93	373	400
紀宝町	176	181	188	196	229	134	244	244
三重県 合計	27,876	27,909	28,142	28,368	25,495	27,199	24,272	-

注) 浸水面積は、河川等部分を除いた陸域部の浸水深1cm以上の範囲で、小数点以下第一位を四捨五入している。

(2) 浸水深が 30cm に到達するまでの時間分布

今回、三重県では、津波浸水想定図に加えて、地域での津波避難に関するより具体的な検討の場において活用することを目的として、津波からの避難行動がとれなく（動くことができなく）なる一つの目安とされている浸水深 30cm に、どの場所がどのくらいの時間で達するかをその時間に応じて色分けした図を作成し、公表しました。「津波から少なくともいつまでにどの方向に避難しなければいけないか」の目安となる情報として位置づけています。

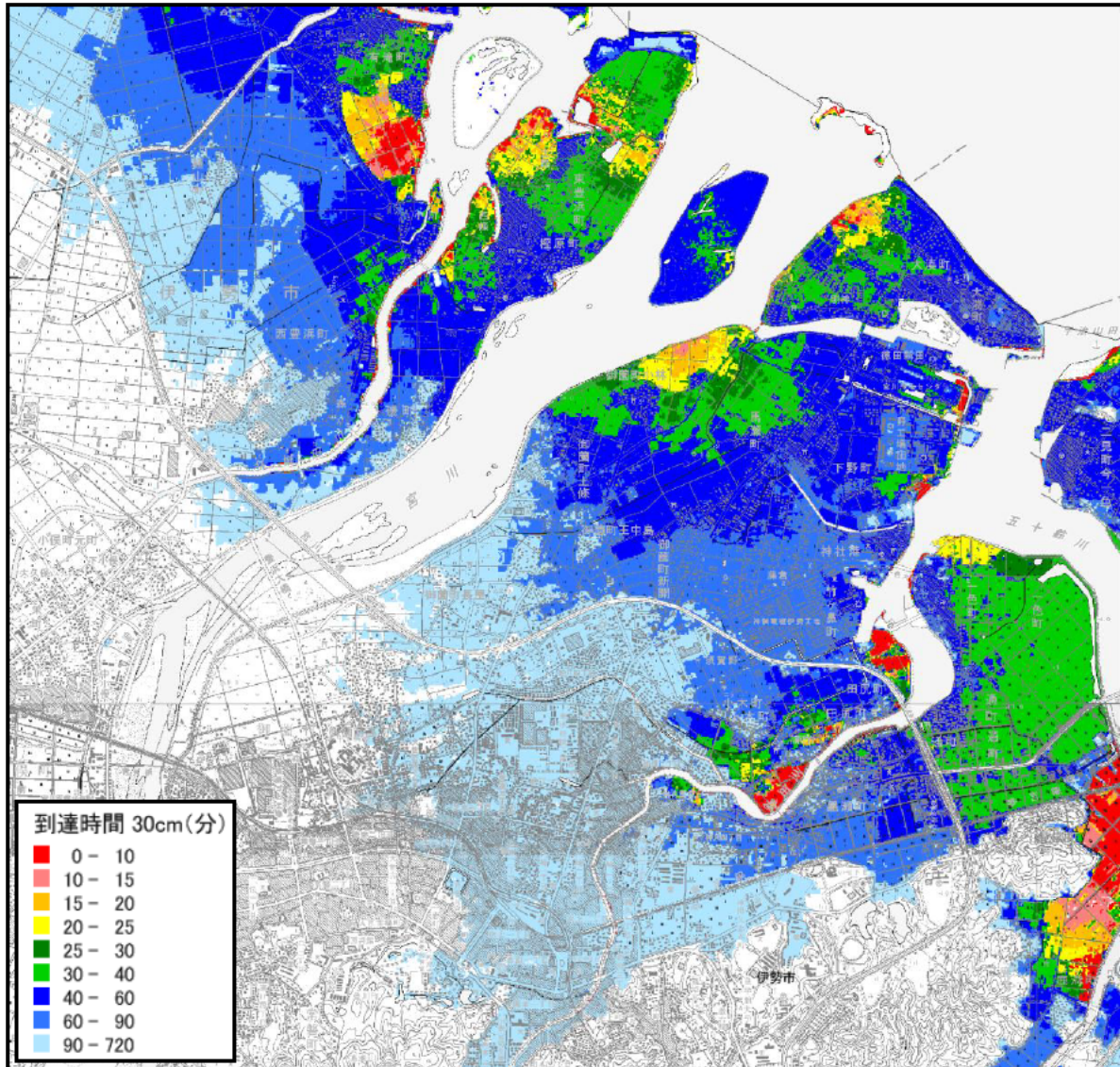


図-14 (1) 浸水深が 30cm に到達するまでに要する時間の分布 (伊勢市の一部の例)

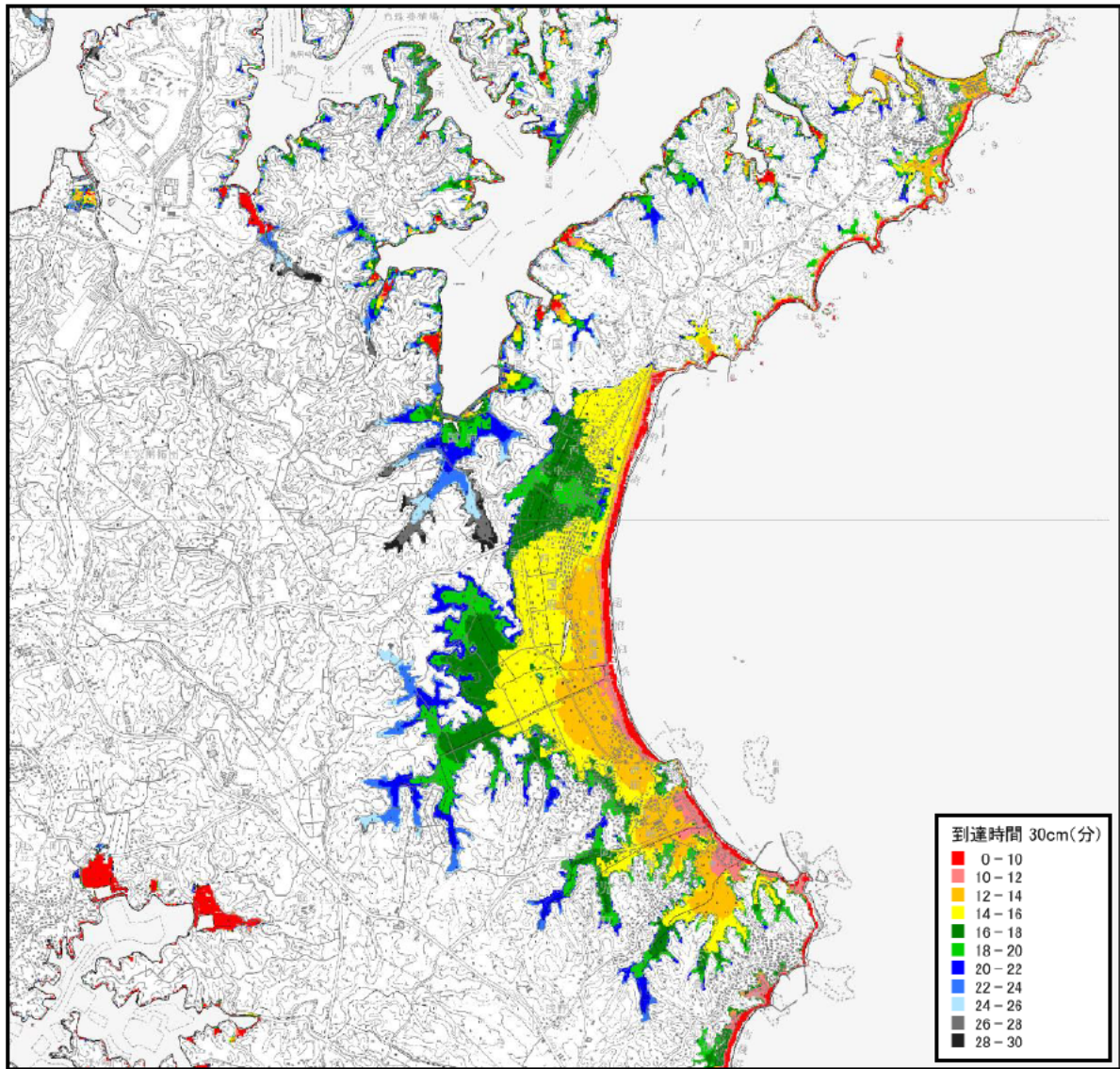


図-14 (2) 浸水深が 30cm に到達するまでに要する時間の分布 (志摩市の一部の例)

なお、今回作成したこれらの図から、各三重県庁舎や各市町本庁舎周辺が浸水深 30cm に到達するまでに要する時間は、大まかな目安として以下ようになります。

表－5 浸水深 30cm に到達するまでに要する時間

県庁舎	浸水深 30cm 到達時間 (分)	市町本庁舎	浸水深 30cm 到達時間 (分)
三重県庁	—	木曾岬町	90～720
三重県桑名庁舎	90～720	桑名市	90～720
三重県四日市庁舎	—	川越町	90～720
三重県鈴鹿庁舎	—	朝日町	—
三重県津庁舎	60～90	四日市市	90～720
三重県松阪庁舎	90～720	鈴鹿市	—
三重県伊勢庁舎	—	津市	90～720
三重県志摩庁舎	—	松阪市	—
三重県尾鷲庁舎	—	明和町	—
三重県熊野庁舎	—	伊勢市	90～720
		鳥羽市	—
		志摩市	—
		南伊勢町	20～25
		大紀町	—
		紀北町	20～25
		尾鷲市	—
		熊野市	30～40
		御浜町	—
		紀宝町	10～15

(3) 最大津波高及び津波到達時間

表－6 市町別の最大津波高

市町名	最大津波高 (m)							左記の内 最大
	ケース1	ケース2	ケース6	ケース7	ケース8	ケース9	ケース10	
木曾岬町	5	4	4	4	4	5	4	5
桑名市	5	4	4	4	4	5	4	5
川越町	4	4	4	4	4	4	4	4
四日市市	5	4	4	4	4	5	4	5
鈴鹿市	5	5	5	5	5	6	5	6
津市	6	5	7	5	6	7	5	7
松阪市	7	7	7	6	7	7	6	7
明和町	8	7	8	7	7	8	5	8
伊勢市	8	7	8	7	6	9	6	9
鳥羽市	27	17	16	10	14	19	10	27
志摩市	23	23	22	26	13	21	13	26
南伊勢町	17	18	19	22	13	17	11	22
大紀町	13	16	15	16	11	11	10	16
紀北町	15	19	19	16	13	12	13	19
尾鷲市	14	14	17	17	13	14	13	17
熊野市	13	16	17	15	13	11	14	17
御浜町	12	11	16	13	15	8	15	16
紀宝町	10	10	10	9	11	10	11	11

(出典) 『南海トラフの巨大地震モデル検討会 (第二次報告) (平成 24 年 8 月 29 日) 』

表－7 市町別の最短津波到達時間（津波高＋1 m）

市町名	最短津波到達時間（分）							
	ケース1	ケース2	ケース6	ケース7	ケース8	ケース9	ケース10	左記の内 最短
木曾岬町	89	90	90	94	92	89	231	89
桑名市	87	85	86	85	91	86	93	85
川越町	85	86	86	84	88	85	93	84
四日市市	77	79	78	83	80	77	90	77
鈴鹿市	69	69	69	69	78	69	81	69
津市	68	68	67	66	72	67	79	66
松阪市	67	68	64	64	70	63	76	63
明和町	55	56	55	56	62	55	64	55
伊勢市	36	39	36	38	42	36	64	36
鳥羽市	11	12	11	12	14	11	14	11
志摩市	6	6	6	6	7	6	7	6
南伊勢町	9	9	9	9	8	9	8	8
大紀町	10	10	10	10	8	10	8	8
紀北町	9	9	9	9	8	9	8	8
尾鷲市	4	4	4	4	4	4	4	4
熊野市	4	4	4	4	4	5	4	4
御浜町	7	6	7	6	6	7	6	6
紀宝町	6	5	6	5	5	6	5	5

（出典）『南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日）』

表－8 市町別の最短津波到達時間（津波高＋3 m）

市町名	最短津波到達時間（分）							
	ケース1	ケース2	ケース6	ケース7	ケース8	ケース9	ケース10	左記の内 最短
木曾岬町	-	-	-	-	-	-	-	-
桑名市	-	-	-	-	-	-	-	-
川越町	-	-	-	-	-	-	-	-
四日市市	-	-	-	-	-	-	-	-
鈴鹿市	-	-	-	-	-	130	-	130
津市	133	-	133	-	144	132	-	132
松阪市	133	133	132	140	145	130	-	130
明和町	123	119	121	166	70	96	-	70
伊勢市	102	104	101	102	110	72	123	72
鳥羽市	14	14	14	15	19	14	19	14
志摩市	7	8	7	8	9	7	10	7
南伊勢町	10	11	10	11	11	10	12	10
大紀町	11	11	11	11	11	11	12	11
紀北町	10	10	10	10	9	11	9	9
尾鷲市	6	6	6	6	6	7	6	6
熊野市	5	5	6	5	5	7	5	5
御浜町	8	7	8	7	7	8	7	7
紀宝町	7	6	7	6	6	7	6	6

（出典）『南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日）』

表－9 市町別の最短津波到達時間（津波高＋5 m）

市町名	最短津波到達時間（分）							左記の内 最短
	ケース1	ケース2	ケース6	ケース7	ケース8	ケース9	ケース10	
木曾岬町	-	-	-	-	-	-	-	-
桑名市	-	-	-	-	-	-	-	-
川越町	-	-	-	-	-	-	-	-
四日市市	-	-	-	-	-	-	-	-
鈴鹿市	-	-	-	-	-	-	-	-
津市	-	-	-	-	-	-	-	-
松阪市	-	-	-	-	-	-	-	-
明和町	-	-	-	-	-	-	-	-
伊勢市	-	-	-	-	-	104	-	104
鳥羽市	23	23	26	19	21	24	21	19
志摩市	8	9	8	9	13	8	13	8
南伊勢町	14	12	14	13	17	14	17	12
大紀町	12	12	12	12	15	15	15	12
紀北町	14	14	14	14	15	16	15	14
尾鷲市	8	8	8	8	7	11	7	7
熊野市	8	7	8	7	7	9	7	7
御浜町	8	7	8	8	7	20	8	7
紀宝町	7	6	7	6	6	19	6	6

（出典）『南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日）』

表-10 市町別の最短津波到達時間（津波高+10m）

市町名	最短津波到達時間（分）							左記の内 最短
	ケース1	ケース2	ケース6	ケース7	ケース8	ケース9	ケース10	
木曾岬町	-	-	-	-	-	-	-	-
桑名市	-	-	-	-	-	-	-	-
川越町	-	-	-	-	-	-	-	-
四日市市	-	-	-	-	-	-	-	-
鈴鹿市	-	-	-	-	-	-	-	-
津市	-	-	-	-	-	-	-	-
松阪市	-	-	-	-	-	-	-	-
明和町	-	-	-	-	-	-	-	-
伊勢市	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥羽市	34	35	100	-	36	34	-	34
志摩市	18	19	19	16	20	18	20	16
南伊勢町	19	19	18	18	30	19	-	18
大紀町	21	21	19	19	-	-	-	19
紀北町	20	20	19	18	22	-	22	18
尾鷲市	16	16	15	14	16	25	16	14
熊野市	18	17	14	13	15	-	15	13
御浜町	35	-	32	33	33	-	33	32
紀宝町	-	-	-	-	-	-	35	35

（出典）『南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日）』

表-11 市町別の最短津波到達時間（津波高+20m）

市町名	最短津波到達時間（分）							左記の内 最短
	ケース1	ケース2	ケース6	ケース7	ケース8	ケース9	ケース10	
木曾岬町	-	-	-	-	-	-	-	-
桑名市	-	-	-	-	-	-	-	-
川越町	-	-	-	-	-	-	-	-
四日市市	-	-	-	-	-	-	-	-
鈴鹿市	-	-	-	-	-	-	-	-
津市	-	-	-	-	-	-	-	-
松阪市	-	-	-	-	-	-	-	-
明和町	-	-	-	-	-	-	-	-
伊勢市	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥羽市	34	-	-	-	-	-	-	34
志摩市	20	21	-	19	-	-	-	19
南伊勢町	-	-	-	-	-	-	-	-
大紀町	-	-	-	-	-	-	-	-
紀北町	-	-	-	-	-	-	-	-
尾鷲市	-	-	-	-	-	-	-	-
熊野市	-	-	-	-	-	-	-	-
御浜町	-	-	-	-	-	-	-	-
紀宝町	-	-	-	-	-	-	-	-

（出典）『南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日）』

7 津波浸水想定の検討体制

今回の津波浸水想定については、有識者の方々に科学的・客観的な観点からご意見をいただきながら、三重県が平成26年3月に公表した地震被害想定における検討結果をもとに設定を行いました。

氏名	所属機関名	役職
高橋 智幸	関西大学	教授
水谷 法美	名古屋大学	教授
川崎 浩司	名城大学	特任教授

8 今後について

今回の津波浸水想定をもとに、沿岸市町において、津波防災地域づくりに関する法律に基づく津波防災地域づくりを総合的に推進するための計画（推進計画）の作成など、ハード・ソフト対策に取り組んでいただく際には、市町に対して技術的な支援や助言を行っていきます。

なお、今回設定した津波浸水想定については、津波断層モデルの新たな知見が得られた場合には、必要に応じて見直しの検討を行っていきます。